

## 令和4年度第3回瀬戸市水道事業経営審議会 結果

1 開催日時	令和5年2月16日（木） 午後1時から午後3時20分まで
2 会場	瀬戸市役所 北庁舎4階 庁議室
3 出席者	委員 5名 愛知工業大学 教授（会長）、中京大学 准教授（副会長） 瀬戸市自治連合会 会長、瀬戸市社会福祉協議会 会長、 瀬戸消費生活クラブ生活学校 会長 事務局 6名 都市整備部長、水道課長、浄水場管理事務所長、水道課課長補佐、 水道課専門員兼工務係長、水道課管理係長
4 欠席者	瀬戸商工会議所女性会 会長
5 議事	瀬戸市水道事業経営戦略の見直しについて
6 その他	(1)瀬戸市新水道ビジョンの策定について (2)令和5年度瀬戸市水道事業当初予算について
7 委員からの意見及び質問、それに対する回答	<p><b>■議事 瀬戸市水道事業経営戦略の見直しについて</b> [事後検証]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営目標の「管路更新率1%」の妥当性について聞きたい。資材の法定耐用年数である40年や団体独自で年数を設定し直した団体も出てきているが、どのように考えているのか。また、管路更新箇所の選定をする際の参考となる漏水調査はどのように行っているのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→現在、管路更新する際に使用する資材は、耐用年数100年のものであるため、「管路更新率1%」は妥当なものと考えている。ただ、更新が進んでいないところもあるため、1%という数値は最低ラインであることも認識している。</li> <li>→漏水箇所の特定は、夜間に漏水探知マイクを使用し、市内を8地区に分けて実施してきたものの、有収率向上への効果が大きくないため、令和5年度は衛星画像データを使用した新たな調査方法を取り入れる予定である。</li> </ul> </li> </ul> <p>[中間検証]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口推計値の見直しは、上位計画である第6次総合計画との整合性を保持して行う際、厳しすぎず、かつ甘すぎない数値を算出する必要がある。</li> <li>・有収水量や料金収入の推計の見直しにあたり、令和2年度と3年度のコロナ禍の影響をどのように考えているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→令和2年度と3年度の実績は、推計の算定対象から除いた上で、数値の見直しを行う予定である。</li> </ul> </li> <li>・近年の物価や賃金の高騰をどのように考えているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→様々なデータを用いて、合理的な説明ができるようにする。</li> </ul> </li> <li>・「企業債（借金）に頼らない経営」とあるが、どの時点まで堅持するのかを知りたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→常時、必要な費用を借りて賄うことは、事業として成り立っていないものと考えている。一時的に多額の資金を工面しなければならない等といった状況でない限りは「企業債に頼らない経営」実現に向けた取組を続けていく。</li> </ul> </li> <li>・施設更新が予定どおり進んでいない要因として、専門職員の不足があるのであれば、財政シミュレーションに該当する人件費や委託費を含めなければならない。水道事業に必要な費用であれば、計上するべきだと思う。</li> </ul>

## ■ 「その他 (1)瀬戸市新水道ビジョンの策定について」

令和5年度に公表予定である「瀬戸市新水道ビジョン」の本冊案の内容を説明

### [水道事業の概要]

- ・全ての事業に共通する事項として、基本方針の文言にある「安全」、「安心」を前提とした内容にしてほしい。
- ・自己水の水源をいつまでも大切に、おいしい水を供給し続けてほしい。
- ・「国の動向」に水道施策の所管が厚生労働省から国土交通省に移ることを言及した方が良いと思う。
- ・「水道施設一覧」にある耐震性「NG」の判断基準を分かるようにしてもらいたい。

### [前ビジョンの評価]

- ・前ビジョンの具体的方策の評価について、「B 継続」の中でも、現状を維持するような継続と、現状からのレベルアップしていく継続の2つに分別できるのではないか。
- ・「B 継続」と「C 対応中」の説明が分かりにくい。

### [環境の変化による課題]

- ・「大地震への備え」について、台風や大雨といった地震以外の災害も、瀬戸市の給水活動に影響が出る可能性があるのであれば、それらのことも考慮に入れていることを記した方が良いと思う。
- ・「新水道ビジョン」と「経営戦略」の整合性に矛盾が生じないように注意してもらいたい。

### [具体的な実現方策]

- ・「主要な水道施設の再構築・最適配置」の自己水と県水のあり方に関する検討は慎重に行うべき事項であることを認識し、拙速な判断にならないようにしてほしい。
- ・水道利用者に提示できる情報は、わかりやすく広報してほしい。
- ・「広域連携」への関わり方について、瀬戸市にとってメリットよりもデメリットが上回る場合に備え、「参加する」と記すよりも「参加を検討する」といった文言にした方が良いのではないか。
- ・水道施設の維持管理において、専門職員の大切さを感じており、現在の職員数が少なすぎると思う。職員の配置だけでなく民間委託を含め、充実した市民サービスを維持できる体制を構築してもらいたい。

## ■ 「その他 (2)令和5年度瀬戸市水道事業当初予算について」

- ・営業費用のうち総係費が大幅に減少しているが、どのような理由か。
  - 前年度まで総係費の対象であった職員が、別の費目に移ったことと、定年延長制度開始に伴い、退職手当分の人件費が減少していることが挙げられる。
- ・営業収益のうち、給水収益が令和4年度と5年度であまり差が出ていない。令和4年度は新型コロナ対策として基本料金の減免を行っているが、予算上どのような取り扱いになっているのか。
  - 減免実施に係る予算は、令和4年6月に補正予算として、給水収益の減少、及び営業外収益の増加を行った。今回の提示資料は、当初予算時点の数値を比較したものととなっている。

## 8 次回以降の進め方と日程

- ・今回出された意見を受け、水道事業経営戦略の見直し案を提示し、議論を進めていく。
- ・次回の開催は令和5年7月を予定しており、改めて日程調整を行うこととする。

以上